



令和4年度学長教育助成制度連携  
地域協働・ドミトリー型融合教育による理工系人材育成



**G-DORM 学生交流プログラム 2022（春休み短期派遣）**  
**新潟大学からの参加者募集について【学部生・院生ともに対象】**

**10月26日（水）正午締切**

新潟大学附属工学力教育センターでは、春休みにタイ・チュラロンコン大学において実施する、学生交流プログラム（短期派遣）に参加する学部生及び院生を募集します。この交流プログラムの実施期間は 2023年3月9日（木）から2023年3月18日（土）です（学内での事前学習を除く）。

このプログラムでは、原則として、2学期（第3ターム及び第4ターム）の毎週月曜1限に開講する英語を使用言語とし、新潟大学の留学生との共修によるアクティブラーニングを含む講義科目と組み合わせ実施します。すなわち、2学期に国内留学のような形で、外国人留学生との英語での共修により、グローバル対応力を養ってから、タイ・チュラロンコン大学に短期留学し、研究室訪問を通じた、現地学生との交流・討論等を行うことで、さらなる能力向上を図る、段階的で実践的なプログラムです。特に、タイ渡航による現地文化を直接体感したり、タイ学生とディスカッションを実施したりすることを通して、国によって異なる課題やニーズを把握し、その課題解決についてリアリティをもって学びます。また、タイ学生との交流により、異文化理解や国際協調性、英語能力の向上も目指します。

少子高齢化による国内市場の縮小や、アジア諸国の低賃金な労働力などから、理工系の業種においても、グローバルな視点から課題を発見・解決できる人材が必要とされています。本プログラムでは、日系企業がグローバル化の流れの中で、どのようにして成長・高度化し、国際展開を図っていったのか、というプロセスについて直接学ぶ機会として、企業訪問あるいは国際機関への訪問も実施予定です。

本プログラムは、正規カリキュラムの一環として実施するため、他にはない、以下のようなメリットがあります。

- 現地渡航による短期派遣プログラムを修了し、一定の評価を得た学生には、単位（原則2単位）を取得することが可能です。
- 基本的選抜基準を満たした学生においては、タイへの渡航に要する費用を一部補助します。また、入国に関し、査証が必要となる場合は、査証申請をサポートします。
- 日本学生支援機構（JASSO）による給付型奨学金を取得することで、派遣期間中、70,000円の支給を得ることができます。これにより、現地での生活費（宿泊・食事等）の多くをカバーできます。
- 現地での移動や宿舎、生活の情報収集等に関しては、相手大学からの協力を得る体制ができています。また、工学力教育センターからもバックアップします。

この学生交流プログラムは、将来、理工系グローバルリーダーとして活躍するために必要となる知識や経験、国際感覚を学ぶものです。今後ますます国際化が進展する中で、みなさんの将来の研究や就職にきっと役立ちます。ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）の自己アピールにも有用です。

ぜひご応募ください！

## 1. 実施期間

2023年3月9日（木）から2023年3月18日（土）

※ 参加学生決定後の航空券手配や各大学・企業と調整の結果、期間が前後する可能性あり。

※ 上記期間は留学期間であり、学内での事前学習・事後学習の日程は含みません。

## 2. 対象者と募集人数

対 象 者：①本学の学部学生（学士課程）もしくは院生（博士前期及び後期課程）であること。

②第2学期（第3ターム及び第4タームの月曜1限）に開講される講義科目「国際工学特論」（学部）、「先端的国際工学特論 II」（博士前期）、「高度先端的国際工学特論 II」（博士後期）を受講すること。

※過去にG-DORMプログラム(2020年9月のCOIL及び2021年サマープログラムは除く)を修了したことがある学生は、上述の「国際工学特論」等の講義の受講無しで、奨学金申請可能だが、応募者多数の場合は、「国際工学特論」等の受講者を優先します。

③コロナ禍での特例派遣となるため、所定の書類を作成し、かつ、新型コロナウイルス感染症対策を講じる意志のある者。また、出発時まで、日本への入国に有効と認められるワクチン接種（3回）証明書を取得可能な者。

募集人数：6名以上（募集人数上限は受入大学と調整中です）

※応募多数の場合は、工学部学生を優先します。

## 3. 活動内容

(1) 講義科目「国際工学特論」等の受講（第2学期月曜1限）

・留学生との英語による国際共修型アクティブラーニング講義を受講します。詳細はシラバス参照。

(2) 出発前の事前学習（1～2月予定）

・渡航先大学での活動内容や、現地での生活や安全に関すること、英語学習に関すること等、事前学習を行います。

(3) 派遣先大学での活動（3/9～3/18）

・派遣先のチュラロンコン大学（タイ・バンコク）において、研究室訪問を通じた、現地学生との交流・討論がメインの活動になります。現地企業もしくは国際機関への訪問も実施予定です。

(4) 事後学習と課題提出（3月中）

・帰国後に成果発表会を開催します。また、自己の学びについて振り返り、今後の大学での勉学や研究につなげられるよう、事後課題（レポート等）に取り組みます。

## 4. 活動スケジュール

10月下旬 応募締切、参加者の選定。

11月上旬 JASSO 奨学金等の申請書類作成、チュラロンコン大学への提出書類作成。

1月～2月 出発前の事前学習。

3月9日 日本出国。渡航後、チュラロンコン大学にて学習活動を実施。

3月18日 日本帰国。

3月下旬 成果発表会の実施・レポート等の課題提出。

## 5. 参加費用

旅費を除き不要です。

旅費（例えば以下に示すもの）は参加者負担です。なお、移動経費や宿泊費、現地での生活費の多くは、JASSO の奨学金（6. を参照）を取得することでかなりカバーできるため、他のプログラムと比較しても安価で参加することができます。

- 空港までの往復交通費 ※1
- 航空券※1, ※2
- タイでの国内交通費
- タイでの宿泊費 ※3
- タイでの食費等の生活費
- 海外旅行傷害保険・危機管理サービス（保険・危機管理サービスには必ず加入していただきます）
- 査証取得に係る費用（必要な場合。募集時点では、日本人は 30 日間のビザ無し渡航が可能です）
- パスポート取得費（持っていない場合）
- オptional ツアーやお土産代 など

※1 成田空港もしくは羽田空港発着のフライトの利用を想定しています。そのため、発着空港に集合・解散とする予定です。なお、新潟空港発着のフライトは、新型コロナウイルス感染症により運休していますが、それが再開された場合は、当該フライトの利用を優先します。

※2 渡航費の一部補助を予定しています。

※3 チュラロンコン大学から安価で安全な滞在施設の情報を提供していただく予定です。現時点では、CU-iHouse（チュラロンコン大学のキャンパス内にある海外留学生を受け入れるための寮）を利用する予定です。

## 6. 日本学生支援機構（JASSO）による奨学金

成績等、一定の要件を満たす学生は、（独）日本学生支援機構（JASSO）への申請により、給付型奨学金を得ることができます。奨学金の額は、70,000 円です。この奨学金は、渡航中に支給対象学生の口座へ振り込まれます（渡航前には支給されません）。

JASSO 奨学金は、「国際工学特論」等の受講者に受給資格があります（上限 8 枠）。ただし、過去に G-DORM プログラム（2020 年 9 月の COIL 及び 2021 年サマープログラムは除く）を修了したことがある学生は「国際工学特論」等の講義の受講無しで、奨学金申請が可能です（上限 5 枠）。応募者多数の場合は、「国際工学特論」等の受講者を優先します。なお、本プログラムの募集人数上限は、受入大学がコロナ禍において受入可能な人数を設定する関係上、奨学金枠数上限を満たすとは限りません。

## 7. 応募に当たっての注意事項

応募に際しては、下記事項について必ず承諾の上で行ってください。

- 派遣前後にはレポートやプレゼンテーション等の課題を提出していただきます。
- 緊急事態がない限り、本プログラムの途中参加（遅れて渡航）及び本プログラム実施期間中の日本への帰国は認められません。
- 病気・けが等の理由がない限り、本プログラムの活動には全て出席してください。
- 現地での活動に際しては、派遣先大学や訪問先企業等の指示に従って行動してください。怠慢な態度であったり、理由もなく遅刻したりした場合は、学習活動中断を言い渡されることもあり得ます。
- グループワークなどでは、タイの学生等との英語での討論となりますが、積極的に議論に参加する意欲をもって参加してください。
- 現地滞在中は、現地の文化を尊重し、新潟大学の学生代表の自覚をもって行動してください。
- 渡航期間中は工学部が指定する海外旅行傷害保険及び危機管理サービスに加入していただきます。

- 参加の際には、必ず保護者に説明のうえ、同意を得てください。渡航前に保護者の同意書を提出していただきます。
- 学年担当（3年までの場合・工学部学生のみ）/指導教員（4年以上の場合）に本プログラムへの参加意志を予め伝えた上で、応募してください。
- 応募に際して、「G-DORM 学生交流プログラム 2022（春休み**中期派遣**）」（2/20～3/29）への同時応募も歓迎します。参加申込書は共通です。申込書の注記に従い優先順位を付けることで2プログラムの同時応募が可能です。ただし、選抜された場合でも、留学先はいずれか1つとなります。
- 本プログラムの活動の様子を撮影した写真・ビデオは、広報活用や、今後の国際交流プログラムの教材資料として活用させて頂くことに、予めご了承ください。
- 本プログラム終了後にG-DORMの改善・発展のための活動（説明会での経験談や経験学生としてのサポート、プログラム改善のためのフィードバック等）に協力を求めます。予めご承知ください。
- G-DORM 関連の英語による国際共修講義・演習科目として、国際工学事情（第4ターム・短期集中）及びG-DORM オンラインプログラム（2/20-3/3）を開講します。いずれも、11月に受講者を募集する予定です。これらの講義・演習は、国際協働（チームワーク）力や英語コミュニケーション能力を向上させる渡航前学習にもつながるため、受講を推奨します。
- 本プログラム参加に当たって、英語力向上効果を測るため、プログラム開始前とプログラム終了後にTOEIC等の英語資格試験の受験を推奨します。獲得した資格や英語スコア情報について、本学工学部に情報提供頂くよう、ご協力をお願いします。なお、提供頂いた情報は統計的に処理した上で活用するため、個別の情報を公開することはありません。

## 8. 応募方法

指定の参加申込書（表裏とも）に記入し、PDFとして保存したファイルを、2022年10月26日（水）2022年10月20日（木）正午までに、下記提出先のメールアドレスまで、メールにて提出してください。【※申込期限を延長しました】

【提出先】 [g-dorm-j@eng.niigata-u.ac.jp](mailto:g-dorm-j@eng.niigata-u.ac.jp)

新潟大学附属工学部工学力教育センター国際教育部門（担当：中野）

## 9. 選考方法

### (1) 書類選考・面接の実施

- 提出書類をもとに書類選考を行い、通過者には面接を実施します。詳細は、メール連絡します。

### (2) 採否の決定

- 提出書類や面接結果、英語スコア、学業成績をもとに、参加意欲や英語力などを総合的に評価して採否を決定します。

## 10. 単位について

本プログラムへの参加に係る、学生自身の事前事後を含む活動状況や課題等を総合的に判断し、一定の評価を得た学生には、以下のように単位を付与する予定です。

- 学部生の場合：原則として、工学部専門応用科目「国際研修」（2単位）。
- 大学院生の場合：原則として、課程共通科目「先端的国際リサーチインターンシップ」もしくは「高度先端的国際リサーチインターンシップ」（いずれも2単位）。

※既に上記科目を履修済みで本プログラムへの応募申請をご検討されている方は、単位付与について、事前に下記担当にお問合せをお願いします。

## 11. お問い合わせ

工学部附属工学力教育センター・国際教育部門の教職員にお気軽にお問い合わせください。

担当：中野（025-262-7290）、上田（025-262-7025）、馬場（025-262-7369）

メール [g-dorm@eng.niigata-u.ac.jp](mailto:g-dorm@eng.niigata-u.ac.jp)

G-DORM プロジェクトのホームページ・SNS を是非ご覧下さい！	ホームページ	Facebook
Homepage: <a href="https://www.eng.niigata-u.ac.jp/~g-dorm/">https://www.eng.niigata-u.ac.jp/~g-dorm/</a>		
Facebook: <a href="https://www.facebook.com/gdorm.niigata/">https://www.facebook.com/gdorm.niigata/</a>		
Instagram: <a href="https://www.instagram.com/g_dorm_niigatauniv/">https://www.instagram.com/g_dorm_niigatauniv/</a>		

## 参考情報

### チュラロンコン大学（タイ）について



タイで最初に創設された 17 学部を擁する総合大学。国際的なアジアの大学ランキング上位で、タイ国内でもランキング 2 位の教育・研究の拠点大学。日本の大学との交流は盛んで、多くの学生が受入派遣されている。



<http://www.chula.ac.th/en/>

G-DORM Web サイト「学生の声」※これまでの G-DORM プログラム参加学生の体験談

<https://www.eng.niigata-u.ac.jp/~g-dorm/contents/voice/?prog=outbound>